

意見交換会概要

日時	平成25年 5月 25日 (土) 19 : 00 ~ 20 : 30
場所	酒津自治会館(酒津地区座談会)
参加者数	約20人
出席者	校区審議室(神谷、小谷、清水)、山田支所長、安藤副支所長、茅山課長補佐ほか

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	今回の統合の話は具体的には小4以下の子を持つ親、結婚して酒津にすむ若者、現在は未成年だが将来的に親となる者が当事者となってくる。5年、10年先の話である。参加者の中には「小中学校とは係り合いがない」「自分には関係ない」と思う方もいるかも知れないが、自分たちの子や孫のためにしっかりした議論をしなければいけない。しっかり考えなければいけない。
参加者 B	年々、児童数が減ってくるから今回の統合話が出てくるのだろう。若者は結婚すると旧市内に出て行っている状況。逆に美保南等のマンモス校は、大規模という問題も起こっているという。一方、逢坂は限界集落に近くなり、過疎化という問題にも直面している。こうなると、統合しても、また統合しなければならないという状況もありうる。問題の解決とはならない。地域振興策を考えるなど、地域の活性化に並行して取り組む必要がある。
参加者 C	4小学校を1校にするという話は初めて聞いた。気高地区の東と西の2校で統合するだろうとは感じていたが、4校を統合するのは初耳である。今後の進め方はどうなっていくのか。
参加者 D	4校をひとつにするとなると小学校位置は浜村になる可能性が高いと思うが、そうなると通学のことが気になる。通学については現段階では言えないというが、統合となると通学バスは不可欠な話題となる。理想は、もちろん歩いて通える距離の学校がいいことは確かだ。山陰には積雪という問題も付いて回る。積雪を考慮しなければ、通学中に凍死するという事はあってはならない。
参加者 E	統合したらこうなるといった具体的な姿を見せない。教育面の具体的なメリット、市の体制やバックアップ体制が整えば統合には賛成。鳥取県西部に努めていた時、当時できたばかりの中高一貫校を視察したことがあった。これを小中学校でできないかと提案したこともあったが、当時は無理であった。小中一貫校という発想はいいと思う。チャンスだから鹿野、青谷に限らず気高も小中一貫校を検討すべき。先手を打って考えることは大切だ。
参加者 F	大変なことだと思う。それに、今の市庁舎問題と同じことだと思う。中心ばかりに目を向け、郡部は置いてけぼりという結果が、学校統合との話に結びつく。地域の活性化を図らないと、魅力のある地域にしないと問題解決とならない。住みたいと思うまちまちづくりをしなければ。若者が出ていくと、活力が失われ地域は尻すぼみ。若者が住みたいというまちづくりが必要である。

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 G	25年度末に答えを出すというが、今後のプランニングはどうなっているのか。
参加者 C	学校でPTAとの会議を持っても、発言や意見が出ないとなるとアンケートを取って意見を集めなければいけない。今日のような会合にも出てこないとなると、意見集約といっても集約する意見が無い状況。自発的な意見集約と言っているが素人には荷が重いし。町（総合支所）が中心となり世帯へ実施するなり、行政が学校を通じて指示するなりして意見を出させなければいけないのではないかな。
参加者 A	行政がアンケートを取ると誘導っぽい内容となる。やはり、保護者や地域が主導した形が望ましい。今回の中学校の統合問題は、私は青谷の意思が一番のキーポイントだと思っている。現実、統合となると山根や澄水（すんず）から浜村に出てくることとなる。子どもの通学方法や負担など考慮したうえで青谷がどう判断するのか。気高は統合、単独どちらに転んでも中学校は残ることになるから、気高は中学校に関しては危機感が薄い。真剣に考えなければいけないのは小学校についてである。
参加者 E	50年前、日南町に勤務したことがある。当時、小学校は8校あった。統廃合に関して、各地域ごとが賛成反対の議論を繰り返し、地域間で綱引きを続け結論を出すまで時間がかかった。結果的に1校に統合となったが、その時には地域、学校ともに疲弊した状態。既に時遅く、統合した学校にも活力はなかった。智頭、若桜も統合したが同様に、個人的には統合は遅かったと思う。反対に鹿野、青谷はベストな時期に統合したと思っている。時間は流れているし、子供数も変化している。早め早めに対策を打たなければ、気高もベストな時期を逃してしまう。350人規模の学校はざらにあるし、将来を見通した計画が必要。先手先手を打たなければいけない。